

## 沿革

明治4年、廃藩置県によって、越後と佐渡の地に新潟・柏崎・相川の3県が置かれました。その後、明治6年に柏崎県は新潟県に合併され、さらに明治9年には相川県が新潟県に合併されて、ほぼ現在の新潟県(東蒲原郡は明治19年に福島県から編入)の姿になりました。

本県の市町村数の推移をみると、明治22年、市制・町村制の施行当時は1市46町769村でしたが、昭和28年の町村合併促進法の施行による昭和の大合併や平成11年以降の平成の大合併により市町村合併が進み、平成31年4月現在では、20市6町4村の計30市町村となっています。

立県140年余、広大な県土と県民の不屈の努力により、着実な発展を遂げてきました。昭和57年の上越新幹線開業をはじめ北陸新幹線の開業、関越道・北陸道・磐越道・上信越道・日東道の5高速道路の開通など、高速交通体系の整備が進められています。また、平成8年に新潟空港の滑走路が2,500mに延長、さらに平成23年には新潟港・直江津港の2港が日本海側拠点港に選定され、国内外との交流を一層深めています。

## 地勢

本県は、日本海沿岸のほぼ中央部に位置し、東側に連なる朝日山地、飯豊山地、越後山脈並びに西側に発達する西頸城山地及び白馬山地の山々に囲まれています。また、これらの山岳に源を発する信濃川、阿賀野川の流域に日本海沿岸随一の広大な越後平野が広がっています。

### 編集・発行

新潟県総務管理部統計課  
新潟県統計協会  
〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1  
電話 025-285-5511  
内線 統計課2434 統計協会2433  
<http://www.pref.niigata.lg.jp/tokei/>

## 県のシンボル

### 県章 (昭和38年8月23日制定)



新潟の「新」を中心に、「ガタ」を円形に模様化しました。融和と希望を象徴し、県勢の円滑な発展を託したものです。

### チューリップ【県の花】 (昭和38年8月23日制定)



提供:新潟県立植物園

明治後期の長岡市で栽培が試みられ、商業生産が本格化したのが現在の新潟市です。チューリップ球根生産の発祥の地といわれ、現在では県内で広く栽培されています。切り花産出額は全国1位を誇ります。

### 雪椿【県の木】 (昭和41年8月27日制定)



提供:新潟県立植物園

暖地に分布するツバキと異なり、その名の通り日本海側の雪の多い地帯に自生しています。昭和41年に全国的に展開された「県の木」制定運動で県の木に選ばれました。雪の中でも緑を見せる生命力を持ち、県民性を象徴しているとも言えます。

### 新潟県のシンボルマーク (平成4年3月27日制定)



新鮮で魅力ある新潟県を県民とともに築いていくためのシンボルとして制定したものです。環日本海時代の拠点である新潟県の美しい文化、情報が世界に広がっていく国際性、積極性を表現しています。

### 朱鷺【県の鳥】 (昭和40年9月13日指定)



提供:環境省

国の特別天然記念物に指定され、国際保護鳥でもある鳥です。日本産の朱鷺は、メスの「キン」を最後に、平成15年10月に絶滅しましたが、平成11年に中国から贈られた2羽からの増殖活動は順調に進んでいます。平成24年には、30年ぶりに自然界で新たな朱鷺の命が誕生しました。

### 雪割草【県の草花】 (平成20年3月1日指定)



提供:新潟県立植物園

新潟県は、雪割草の国内最大の自生地であるとともに、その花の色や形の変異の豊かさは世界的に注目されています。一時は絶滅も危惧されましたが、多くの皆さんの保護活動により守り育てられました。自然を愛し、環境を守るために活動する新潟県民を象徴する草花です。

### 錦鯉【県の鑑賞魚】 (平成29年5月5日指定)



新潟県は錦鯉の発祥地であり、経営体数も全国一を誇ります。交配や育成技術の向上により、現在では100種類を超える多彩な錦鯉が作り出されています。

国内だけでなく世界各国の人々が、「泳ぐ宝石」と称される錦鯉を芸術品として鑑賞しています。錦鯉は新潟の自然と伝統が育んだ貴重な魚であり、新潟県を象徴する「鑑賞魚※」と言えます。※一般的には「観賞魚」と表記しますが、錦鯉が美術的な価値があるという意味を含め、あえて「鑑賞」の文字を使用しています。